

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	塚本駅前にこここツリーハウス		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日			
○分析結果	2026年 2月 25日		

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育担当者は全員保育士資格保有</li> <li>保育所、幼稚園勤務経験者あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが日々、集団生活で何が困っているかを受け止め、タイムリーに療育に取り入れアプローチしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが通所している園訪問することで園での様子を知り、先生たちとも情報共有を深めることで、子どもたちの過ごしやすい環境を整えていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育プログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食に対して、こだわりが強い、偏食など悩みを持つお子様に対して「たべること」の楽しさや大切さを伝える。</li> <li>季節(旬)や栄養素にも意識を持ち、健康的な生活にも意識を向けている。</li> <li>食事のマナーや食具の正しい持ち方を伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな角度から「食」を楽しむことができるようにキノコ栽培や野菜を使った実験、行事食や世界の料理などにも着目していきたい。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者地域との交流機会や、保護者同士の交流の機会の提供不足。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の計画として、保護者参加イベントの年1回の企画のみで、立案できていない。</li> <li>平常時の「本人支援」に重点を置いているため、地域支援、地域交流に対する情報収集不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や保護者交流の企画立案と内容に関しては、保護者の意見やニーズを聴取しながら計画していく。</li> <li>安全に考慮しながら、地域との関わりの機会を増やしていく。また、地域活動などの情報収集も積極的に行なっていく。</li> </ul>
2	保護者の方への緊急時、非常時等への対応に対する周知、発信不足。	防災への取り組みや緊急時の対応マニュアル等の作成はされているが契約時のみの説明と事業所内掲示のみにとどまり、周知機会が不足している。	防災への取り組みや緊急時の対応に関して、内容を確認しながら保護者周知に努める。必要時、冊子の作成。HUGやホームページ等を通じて、保護者の方々へ発信していく。
3			

## 公表 保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	塚本駅前こここツリーハウス
------	---------------

公表日 2026年 2月 25日

利用児童数 23

回収数

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	1				活動に合わせた環境づくりを工夫していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16					今後も専門性の向上に努めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1				バリアフリー化は施設の構造上難しい部分もありますが、利用者の特性を捉え環境を整えていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16					今後も安心してご利用いただける環境構成を努めます。
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16					あらゆる視点から分析できるように資質向上を目指します。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16					療育の「みえる化」をこれからも実践してまいります
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16					利用者の思いを汲みながら、あらゆる角度からのアプローチを試みてまいります。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16					利用者のニーズも大切にしながら、より専門的な視点からの支援のアプローチを目指していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					より明確に紐づけることができるよう工夫していきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	6			似たようなプログラムの日もあるので、新しいものがあればいいと思います。	繰り返しの経験も大切にしながら、マンネリ化しないよう工夫してまいります。
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	2	3	1		定期的に自社保育園との交流を実施していますが、機会があれば、積極的に交流を広げていきたいと思っています。	
保護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					今後も丁寧な説明を心がけていきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16					お子さまの成長の中、共通理解が最も大切であるという観点からも大事にしてまいります
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	1	1	2		家族支援の充実を観点に、企画運営していきたいです。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	16					お子さまの成長の中、共通理解が最も大切であるという観点からも大事にしております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16					必要に応じた支援を行なっていきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16					これからも利用者寄り添う姿勢を忘れずに努めてまいります。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	2	2	10		保護者のニーズも伺いながら、交流の機会を増やしていきけるよう善処してまいります。	
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16					申入れがあった場合、可能な限り迅速に対応できるよう職員間で共有しています。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている と思いますか。	16				ひたすら泣いてくる場があるこ と、なんでも話せる雰囲気づくりを保っ て いきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体 制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発 信されていますか。	16				翌月の活動予定の発表が遅れないよう に、より計画性を持って対応してまいり ます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16				個人情報の取り扱いに関して、定期的に 職員間で確認を行なっています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マンユ アル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されて いますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16				職員対象に年4回マニュアルテストを実 施。今後もより詳細に緊急時の対応を シミュレーションしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な 訓練が行われていますか。	16				避難訓練は月2回程度。地震や火 事を想定した訓練を行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される 等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	16				「命を守る」大切さをしっかり伝えてい きます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や 事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15			1	救急時の対応は、利用契約時に必ず説明 しております。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				たくさんの笑顔で溢れる場所であり続け たいと思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16				子どもの「居場所」の提供を日々心がけ ています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				日々進化しつつも安定した療育を 心がけてまいります。

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
塚本駅前ここにごっこつりーハウス		年 月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		活動内容により屋内・屋外など活動場所を工夫している。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		適切に配置している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		利用児導線を想定し、環境整備に心がけている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		活動後の療育室内の清掃、空気清浄機の設置、使用した玩具や療育グッズの消毒実施。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		活動に応じて衝立等を使用し、療育室内で区分けしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		日々、職員間での申し送りの時間をもち、会議や話し合いの時間を確保し情報共有を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者の意見には謙虚に耳を傾け、ご意見を基に運営している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		定期的ミーティングを行い、職員の意見を反映していく。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		必要に応じて検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		職員が研修を受けやすい制度を設けている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		ホームページに公表している。利用児の状況・ニーズに合わせて見直しを行っている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		利用児・保護者のニーズに合わせて、職員で話し合い作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		担当者会議を実施。様々な目線で支援計画を立てている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個々の課題やニーズを明確にし、支援にあたっている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		保育所保育指針などを参考にしながら、利用児の成長に合わせて計画している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		利用児のニーズを明確にして、優先順位をつけ、支援している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		プログラム内容は利用児に発達に合わせ構成している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節を感じられる内容も取り入れ、活動には目標を設定し、工夫して取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	利用児の発達に合わせた個別・集団の活動内容を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼の際に1日のスケジュールや注意点など職員間で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	朝礼時や療育終了後に気付いた点など、職員間で情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	活動記録等を活用し、振り返り・課題など記録として残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを行い、ニーズの確認や利用児の変化も保護者と共有している。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	必要に応じて、担当者が出席。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関との連携は、保護者の協力を得ながら訪問等で行っている。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	通所園への訪問することで、情報共有・利用児への最適な支援へ繋げられるようにしている。	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	サポートブック等の作成は行なっている。	サポートブック等の作成は行なっているが、今後ニーズに合わせ、積極的に連携を持っていきたい。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		連携が行えるように、訪問等で関係構築していく。
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		周辺の園や利用児の通所園との交流が出来るようにしていく。
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	提供記録への記載や、送迎時直接お伝えしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者の声や意見など、聞き取りを行い助言など行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	利用契約時に、保護者と読み合わせを行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者の思いをしっかりと受け止めるために、余裕を持ったアセスメント・モニタリングの時間を作っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者のニーズに沿った計画になっているか確認するために内容の説明は十分に行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や電話、来所など必要に応じて保護者との時間を確保している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		親子プログラムの定着を目指し、保護者間の交流できる時間を持てるような企画を考えていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		可能な範囲で迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		アプリ内での日々の活動内容の発信と合わせ、SNSやHPなどでも情報発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		取り扱いルールの周知と共に、定期的に注意喚起をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		伝わりやすい言葉でお伝えしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		検討中
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年4回職員対象のマニュアルテストの実施。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月様々な想定での避難訓練の実施。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用前にフェイスシートを使用し、聞き取りの実施。必要に応じて保護者への聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の診断書の提示してもらった対応の実施。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		社内研修でAEDの使用方法などの研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		施設入り口に資料の設置をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		発生時案の職員間での共有、再発防止策を講じている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		社内に虐待防止委員会の設置。研修などにも参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		保護者への十分な説明を行っている。		